

森のワークキャンプ。

～いま、森林を守るためにできることは(下草刈り編)～

東京都教育委員会では、平成19年度から、すべての都立高校に、教科「奉仕」(仮称)を設置し、「奉仕体験活動」を必修化していくことに伴い、「奉仕体験活動必修化実践・研究校」の指定や「カリキュラム開発委員会」の開催など、必修化に向けての取組を進めているところです。

生涯学習スポーツ部では、奉仕体験活動支援部会事業として文部科学省委託事業「地域教育力再生プランー地域ボランティア活動推進事業(高校生対象事業)」を活用し、高校生のボランティア活動などの奉仕体験活動への契機となるように、夏季休業期間中における宿泊型体験活動プログラム、森林ボランティア体験事業「森のワークキャンプ～いま、森林を守るためにできることは(下草刈り編)～」(3泊4日)を実施しました。

本レポートでは、自らが所有する山林(東京都西多摩郡檜原村)で、「都会に住む人に林業体験をしてもらうことにより、林業や山についての理解を深めてもらう」取組を進めている林業家田中惣次氏・野村康夫氏・野村治道氏と、ボランティア・グループ「シャル・ウィ・フォレスト」等の協力で開催した「森のワークキャンプ」の様子を紹介します。(平成17年8月4日(木)～8月7日(日)3泊4日、38名の高校生等が参加)

ベースキャンプ地は、檜原村小坂志川上流

作業現場は、山梨県、神奈川県、東京都の1都2県の境に位置する、標高853mの山頂。ガスも水道も電気も当然ないので、自分たちでテントを張り、トイレやシャワー、水場づくりから作業が始まります。水も沢まで降りて、ポリ容器でベースキャンプまで運び上げなくてはなりません。



山仕事の基礎編ー大鎌研ぎ

作業に入る前に、まずは大鎌を研ぐことから教わります。下草を刈っていると当然切れ味が悪くなり、急斜面で大鎌を研がなくてはなりません。切れない大鎌は、自分の体力や気力を奪うことにつながっていきます。森林作業は、常に危険と隣り合わせなので、大鎌研ぎをしながら、刃物の怖さとその使い方を学んでいきます。



下草刈り体験

「下草刈り」は、ヒノキや杉の幼木に覆いかぶさる雑草を刈り取る、林業の中でも一番きついとされている作業です。この作業なしには、人工林は育つことができません。



共同生活体験から共感・実感へ

この「森のワークキャンプ」は、テントでの生活から作業まですべてグループ活動を基本としています。それぞれ、役割分担をしながら、協力して、よりよい生活や活動にしていく工夫が生まれます。

毎晩、その日に体験したことについて、グループごとに振り

返る時間を設けて、自分なりに感じたことや思ったことを、自分の言葉で表現していきます。グループで活動を続けてきた、同じ体験してきた仲間だからこそ、その言葉を受け入れ、共感し、そのことが、活動への意欲やエネルギーになっていくことを実感していきます。

達成感から自信へ

3泊4日の「森のワークキャンプ」が無事終了し、日焼けしてたくましくなった高校生たち。「みんなでやったから、これだけのことができた」というように、非日常の生活環境と、「下草刈り」というつらい作業をグループのチームワークで、乗り切ったという達成感が、自信につながったようです。

高校生の感想

「下草刈り作業をやった時は、斜面に登るだけで大変でしたが、2日目、3日目とやっていくうちにだんだんと山に慣れて、楽しめるようになっていきました。日常では体験できないことが体験できて、人生においてとても大切なことを学んだように思えます。」

「下草刈り作業は、きつかったけれど、刈り終わった斜面を見たときの感動は忘れることができないと思う。『また、やりたいな』と思った。」

今後の予定

- 「森のワークキャンプ～(間伐編)～」
(日時) 11月26日(土)～27日(日)(1泊2日)(予定)
(会場) 檜原村
- 「森のワークキャンプ～(枝打ち編)～」
(日時) 12月17日(土)～18日(日)(1泊2日)(予定)
(会場) 檜原村
- 「三宅島緑化ボランティア体験・ワークキャンプ」
(日時) 11月18日(金)～20日(日)(2泊3日)(予定)
(会場) 三宅村(三宅島)
(指導・協力) NPO法人「園芸アグリセンター」(*) など

※ NPO法人「園芸アグリセンター」とは

三宅村に緑を取り戻そうと、都立園芸高校の卒業生たちが、植林事業などを進めるためのNPO法人(特定非営利活動法人)を結成。園芸高校生徒たちによる、「三宅島緑化プロジェクト」に、大人たちとしてもこたえようという動きで、植林などのためのボランティアとして活動を展開していく予定。